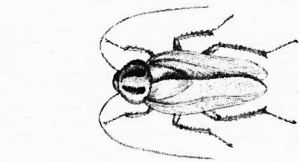


冬の虫

活動のようすはさまざまだが、冬も多くの昆虫をみる事ができる



イエハエ 5~6mm 日なたの窓にいる



チャバネゴキブリ 12~15mm 台所などの火を使うところの物かきにいる



ヒメイエバエ 5~7mm 天井より近くをとぶ



オオクロハエ 11~15mm 日なたにいる



ウスバフユシヤク 20~30mm 家の中にもみられる

元気のよい虫

■とびまわるハエ

ハエのなかまの成虫は、冬もよくとびまわる。家の中にいるものと、野外にいるものがある。

■台所のさらわれもの

ゴキブリは、暖房のきいた台所に多く、食品をなめるさらわれものだ。

■冬でるガのなかま

フユシヤクは、冬に成虫が出現するシヤクトリムシのなかまである。

じっとしている虫

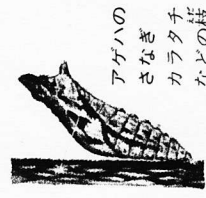
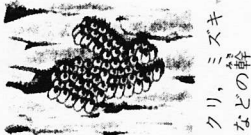
■みつげやすいところ

木の幹や枝は、露出している。このようなところではじっとしている虫は寒さや乾燥にさらされるが、それをたえしのぶ。

■体液がこくなる

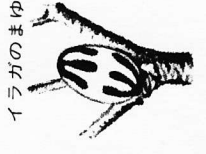
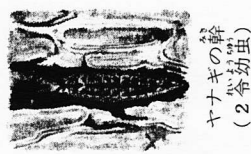
ふつうの状態では、体液が凍って死んでしまう虫でも、冬はこくなって凍りにくくなる。また、少しくらくら凍っても、死なないうようなしくみになっている。

クスサンの節



アゲハのさなぎ カラタチなどの枝

コムラサキ幼虫



ヤナギの幹 (2令幼虫) イラガのまゆ



タテジマ カミキリ

*冬の昆虫

冬の気候的な特徴は、低温と、一部の地方を除くと乾燥である。昆虫は低い温度にはたえられず、乾燥によつて死んでしまうことが多い。この寒さと乾燥をどうさしているか、みよう。

少ししかくれる虫

■落ち葉や石の下

冬の寒さは、ちよつとした物かげにかくれても防げるものではない。しかし、適度な湿度は、虫の命を救ってくれる。

■日なたより日かげ

冬でも、昼間の日なたは相当に温度があがる。夜はどこも同じようにはさがる。この温度差のあまりない物かげや、花筒が虫の冬越しによい。



コマダラチヨウ幼虫 エノキの落ち葉の下



ナナホシテントウ 石の下など



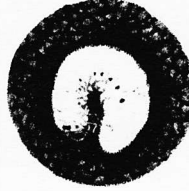
マツカレハ幼虫 マツの樹皮のすきま



ツマグロオオヨコバイのくぼみ



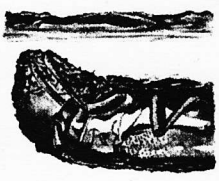
キチヨウ かげのくぼみの木の根や草につかまる



カブトムシ幼虫 腐植土の中



ヒメマイカブリ くち木の中



シロスジカミキリ クリなどの木の中



ウンモンズズメのさなぎ 浅い土の中

野外ではほとんどの虫が、どこかでじっとしている。この場所は人の目につきやすいところ、つきにくいところ、まったくかくれてしまうものなど、いろいろである。

昆虫の冬越しは、蛹、節の中の幼虫、幼虫、前蛹、さなぎ、成虫など種類によっていろいろである。幼虫の大きさはさまざまである。この冬越しのようすは、年月がたつてもかわらない。

1084
2010年
3月10日